

コトシサイクリング(今治)

6月、今治タオル版エコマーク誕生 協賛企業を募集し年間3百万枚を発行

今治タオル版エコマークが誕生する。繊維からバイオエタノールを精製するコトシサイクリング(今治市旭町二丁目一五、岩本美知雄社長)がタオルくすの再資源化に賛同するタオル製造会社に対し、六月から一口二十万円で三万枚の認証マーク使用権を販売するもの。同社は現在四国タオル工業組合の協力を得て協賛企業を募集して、一年間で百口、三百万枚分の販売を目標とする。

同社は携帯電話やプラスチック、

衣料品のリサイクル事業を行う日本環境設計(東京)のグループ会社。繊維からバイオエタノールを精製する技術を開発し、タオルの生産工程で発生するタオルくすからエタノールを精製。染色工場で重油の代替燃料として再利用する循環型タオル生産プロジェクトを推進。昨年四月、今治市内の染色工場内にエタノール精製のプラントを設置し試験運用を行っている。



今治タオル版エコマーク認証プラント

る。

同プラントで精製されたエタノールは、原料の回収費用等のため重油に比べ高コスト。こうしたことから同社は、同エタノールを安価で供給し価格競争力を高めるため、協賛するタオル製造会社に認証マークを販売。タオルくすを再資源化している環境配慮型工場で生産されたエコタオルとしてブランド化することにした。

同社は協賛企業に対し一口二十万円で三万枚の認証マーク使用権を販売。同マークはタオルのタグや包装、パンフレット等に利用できる。協賛企業は今治地区のタオルメーカー百二十四社が加盟する四国タオル工業組合の組合企業を対象に募集。マーク使用の受付、発行、管理は同社が行う予定で、現在認証マークの名称及びデザインを選定中。六月から販売を開始する。同社は協賛工場から一口あたり三千円でタオルくすを購入。

同社プラントでエタノールを精製し、染色工場へ販売する計画。

同社は「環境意識の高まりから、エコ商品の訴求力は年々高まっている。同マークを導入することでタオルの販売増に繋がる」として、一年間で百口、二千万円分の販売を見込む。また「高品質でエコな今治産タオルのイメージを定着させていきたい」と(高尾正樹専務)としている。